

しろいし

shiroishi city council paper

市議会だより

2021年
秋
AUTUMN
第203号

五穀豊穡などを願い開催された
小原地区伝統弓道大会



2～3P 9月定例会の概要・審議した議案
4～5P 決算審査特別委員会
6P 予算審査特別委員会
7P 特別委員会報告
8～9P 常任委員会

10～14P 市政に対する一般質問(9名)
15～16P 討論・意見書
17P 議会の構成
18P 人事・8月臨時会の概要
議案の賛否一覧・編集後記

9月定例会 令和2年度決算を認定 一般会計補正予算など15議案可決

令和3年9月定例会は、9月6日から9月27日までの22日間の日程で開催されました。市長提出議案は、人事1件、専決1件、令和2年度各会計決算の認定など2件、条例5件、令和3年度各会計補正予算5件の計14件でした。

定例会初日、第61号議案および第62号議案が提案され、採決の結果、全会一致で同意・承認しました。

2日目、第63号議案および第64号議案の質疑が行われ、決算審査特別委員会に審査が付託されました。

3日目、第65号議案から第74号議案の質疑が行われ、条例5議案は採決の結果、全会一致で原案のとおり可決、予算5議案は、予算審査特別委員会に審査が付託されました。また、定例会前までに受理した請願1件(請願第4号)については、総務産業建設常任委員会へ審査が付託されました。

一般質問は、9月21日と9月22日の2日間で、9名の議員が質問を行いました。

定例会最終日の本会議において、各委員長報告を行なった後、第63号議案については、反対および賛成の討論があり、採決の結果、賛成多数で認定され、残る議案については、全会一致で原案のとおり可決しました。

請願第4号については、委員長報告を行なった後、反対および賛成の討論が行われ、採決の結果、賛成少数で不採択となりました。

また最終日に、市長提出議案1件(第75号議案)が追加提案され、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決しました。

同日、議員提出議案1件(議提第3号)が上程され、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決しました。



市長の提案理由説明

審議した議案の主なものは次のとおりです。

条例等

◎白石市学校給食条例

各学校ごとに校長が徴収・管理し、市に納付している学校給食費について、令和4年4月1日より、保護者から直接市に納付する形式に移行する

計画であることから、学校給食費の適正な管理と保護者の負担の公平性を確保するとともに、学校給食法で努力義務とされている学校給食を明確に位置づけるため、条例を制定するものです。

9月定例会で審議した議案

議案番号	件名	審議結果
第61号	市長提案 人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて	同意
第62号	専決処分承認を求めることについて(専決第16号) (令和3年度白石市一般会計補正予算)	承認
第63号	令和2年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について	認定
第64号	令和2年度白石市水道事業会計及び下水道事業会計の資本剰余金の処分及び決算の認定について	原案可決及び認定
第65号	白石市個人情報保護条例及び白石市行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報提供に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
第66号	白石市学校給食条例	原案可決
第67号	白石市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	原案可決
第68号	白石市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	原案可決
第69号	白石市国民健康保険条例の一部を改正する条例	原案可決
第70号	令和3年度白石市一般会計補正予算(第6号)	原案可決
第71号	令和3年度白石市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	原案可決
第72号	令和3年度白石市介護保険特別会計補正予算(第3号)	原案可決
第73号	令和3年度白石市後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	原案可決
第74号	令和3年度白石市下水道事業会計補正予算(第1号)	原案可決
第75号	令和3年度白石市一般会計補正予算(第7号)	原案可決
第3号	議員提案 コロナ禍による厳しい財政状況に対処し地方税財源の充実に求める意見書	原案可決
第4号	請願 安心安全な地域医療のために、刈田病院の健全経営を求めることに関する請願	不採択

予算

◎令和3年度白石市一般会計補正予算(第6号)

これまでの歳入歳出予算にそれぞれ5億609万7千円追加し、予算総額を170億8千864万1千円とするものです。

主な内容は次のとおりです。

- 道路維持補修費(除雪関連経費) 6千158万3千円
- 緊急自然災害防止対策事業 2億1千500万円
- 官民連携基盤整備推進調査事業 4千505万円
- 消防団備品整備事業 261万7千円
- 新型コロナウイルス対策事業(小学校費) 371万7千円
- 新型コロナウイルス対策事業(中学校費) 299万3千円

本会議質疑より

◎白石市学校給食条例

〔質疑〕学校給食費を各学校が管理する私会計から、市の公会計に移行することによるメ

リット・デメリットについて伺う。

〔答弁〕公会計化の最大のメリットは、教員の業務負担の軽減である。

教員が学校給食費の徴収管理業務を担う必要がなくなることで、その時間を活用して授業改善や児童生徒に向き合う機会を増やすことが可能になると考えている。

また、公会計化により、学校指定金融機関のみではなく、多くの金融機関から口座振替を選択することが可能となることから、保護者にとってもメリットがあると考えている。

デメリットとしては、児童生徒や保護者と顔の見える学校ではなく、市が徴収者となることで、滞納が増加する懸念があることである。

令和元年度および令和2年度においては、学校給食費の未納はないが、仮に滞納が発生した場合、学校と連携して納付を促すよう取り組んでいきたいと考えている。

◎令和2年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について

〔質疑〕令和2年度の一般会計歳入歳出決算は、決算規模が過去2番目、2年連続の黒字経営となった。一方、財政力指数は前年度と比べると上昇したものの、経常収支比率は悪化となった。

令和2年度の収支をどのよう分析し、今後の予算編成、事業計画に生かしていくのか伺う。

〔答弁〕令和2年度は、国・県支出金などを最大限に活用し、新型コロナウイルス対策事業に全力で取り組んできたところである。

しかし、依然として新型コロナウイルス感染症の終息が見込まれず、経済活動の自粛が長期化しており、市税や使用料など本市財政に対する影響は今後も続くものと想定される。

さらに、令和元年の台風や本年2月の福島県沖地震など大規模災害に立て続けに見舞われていることもあり、財政の硬

直化と基金減少のリスクが懸念されることである。

また、厳しい経営状況が続く公立刈田総合病院については、年間20億円もの赤字が想定され、経営改善のための努力を継続しているものの、今後、国や金融機関からの支援が受けられなくなれば、その86.7%は本市が負担しなければならず、本市財政に対する影響を大変危惧することである。

このような状況を踏まえ、自主財源の確保が大変重要な課題であることから、今後の予算編成や事業計画については、限られた財源をどこに重点的に投資していくかという、選択と集中がさらに重要になると考える。

〔質疑〕令和2年度で特に印象に残った事業や施策を伺う。

〔答弁〕新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、GIGAスクール構想で1人1台パソコンを導入できたことである。

何としても学びを止めないとの思いから、教育委員会や各学校での熱心な取り組みによりデジタル化が大きく推進さ

れたものと考えている。

今後は、不登校児童の対応などにも活用することにより、誰も取り残さない、一人一人に寄り添った教育をさらに推進できるのではないかと期待する。

また、(仮称)白石中央スマートインターチェンジが新規事業化されたことは非常に大きいことである。

人口減少を止めるためには、未来に向けた投資も必要である。しっかりと働く場所を確保し、本市の人口流出を何とかとどめるとともに、新たに人口流入のための政策を推進していくかなくってはならない。

スマートインターチェンジとその周辺整備については、国の交付金や補助金、交付税措置のある地方債などを有効に活用し、一般財源をできる限り圧縮して事業を推進する予定である。

令和2年度は非常に厳しく困難な経済状況下であったが、間違いなく将来にとっても大きな光の見えた年度だったと総括している。

決算審査特別委員会

第63号議案・令和2年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定についておよび第64号議案・令和2年度白石市水道事業会計及び下水道事業会計の資本剰余金の処分及び決算の認定についての2議案は、定例会2日目(9月9日)の本会議において質疑が行われた後、議長および監査委員(松野久郎)を除く全議員で構成する決算審査特別委員会が設置され、審査が付託されました。

同委員会(委員長・四竈英夫、副委員長・伊藤勝美)は、9月13日および14日の2日間にわたり審査を行いました。

その結果、第63号議案については、反対および賛成の討論があり、採決の結果、可否同数となり、委員長裁決により認定とし、また、第64号議案については、全会一致で原案のとおり可決及び認定しました。

審査の中で議論された主な点は次のとおりです。

一般会計

総務費

合病院についての意見が一番多く、次にスマートフォン・タブレットの整備、有害鳥獣対策への意見が多かった。

個別の要望で早急に対応が必要なものについては、担当課で措置したものもある。

また、スマイルメールに寄せられた意見を反映させたものとして、特別定額給付金事業において、基準日以後に出生したお子さんに対しても、独自支援

策として臨時交付金を使った給付事業の実施に至ったケースがある。

これら相談事業での対応や、昨年の特別定額給付金、新型コロナウィルス対策事業での各種

民生費

〔質疑〕生活保護について、令和2年度は11世帯の減とのことであるが、他市町村では「コロナ禍で生活保護世帯が増えている中、本市において減少となったことについて、どのように分析しているか伺う。

〔答弁〕人口と比較すると、令和2年度末で8.4%(パーミル)二分の1、令和元年度末で8.6%とほぼ横ばいである。

生活保護に至る前の段階で、白石市社会福祉協議会委託事業の生活困窮者自立支援事業において、生活困窮者に対する相談、就労や社会復帰についての支援を行なっているが、令和2年度の新規相談件数は131件で、前年度と比較し41件増加している。

農林水産業費

〔質疑〕農産物等販売施設整備運営事業について、おもしろい市場に指定管理者制度を導入したことによる成果について伺う。

〔答弁〕本年4月から新しい事業者が管理を行なっており、8月末現在の売上額は、昨年度と比較し約50万円増加している。来場者数も昨年以上に上っており、運営状況は良好である。

また、ササニシキの日本酒の酒かすを使ったシエラートなど、新商品の開発を行い、順調に進んでいる状況である。

商工費

〔質疑〕白石スキー場整備備事業における経営改善支援資金貸付事業は、毎年、雪の関係で非常に不安定な事業となっているが、今後の方針を伺う。

〔答弁〕スキー場については前事業者から譲渡を受け、NPO法人を立ち上げた時に、2千200万円の寄附を受け、基金を造成している。

この基金により貸付事業を行なっているものであるが、温暖化の影響もあることから、基金の耐力も2、3年くらいは耐えられるよう、検討していきたいと考える。

土木費

〔質疑〕子育て応援住宅事業について、入居戸数が80戸中約45戸前後で推移しているが、入居率を上げるため、家賃を下げるなどの考えはないか。

〔答弁〕毎月、市広報紙に募集記事を掲載しているほか、市ホームページ、市掲示板で周知を図っており、こじゅつろう

令和2年度 一般会計・特別会計決算の状況

単位：円

Table with 4 columns: 会計名, 歳入決算額, 歳出決算額, 差引額. Rows include 一般会計, 特別会計, 国民健康保険, 介護保険, 後期高齢者医療, 合計.

令和2年度 企業会計決算の収支状況

(消費税相当額を含む) 単位：円

Table with 3 columns: 会計名, 収益的収入, 収益的支出. Rows include 水道事業, 下水道事業.

Table with 3 columns: 会計名, 資本的収入, 資本的支出. Rows include 水道事業, 下水道事業.

教育費

キッズランドやおもしろい市場などにもチラシを常設しているが、入居者数が伸び悩んでいる状況である。子育て応援住宅は基金を積み立て、退居後、市内に定住した方に補助金を交付しているところであるが、家賃の見直しなどについては、他の状況も踏まえながら検討していきたいと考える。

今年度は、越河小学校、白川小学校、深谷小学校の女子学校は61.5%、合計55.4%である。【質疑】小中学校施設整備事業について、令和2年度のトイレルの洋式化率を伺う。【答弁】小学校は51.2%、中学校は61.5%、合計55.4%である。

特別会計

トイレ各1カ所、東中学校の男子トイレ3カ所を予定している。

【質疑】介護保険事業における高齢者権利擁護に関する相談件数は昨年度よりも増えているが、虐待、成年後見以外にどのような相談があるのか伺う。【答弁】頼れる親族がいない、判断能力の低下、認知症の悪化などの理由により、金銭の管理ができず、生活が破綻して相談に結びつくケースが多いようである。

【質疑】虐待相談のうち、通報受理数が27人で、昨年より10人増加しているが、どのような対応をしているのか伺う。【答弁】警察が臨場したケースのうち、軽度のもも早めに地域包括支援センターに通報をいただいたことにより、件数が増えている。通報があった際は、長寿課、地域包括支援センターで情報の共有を行い、実態調査を行なった後、その緊急性、虐待の有無、またそれによる保護、分離、介入、支援の必要性などを判断し対応している。

【質疑】後期高齢者医療事業について、高齢者の健康保持増進のための具体的な内容を伺う。【答弁】高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施を踏まえ、介護予防の面から健康事業を実施している。県の後期高齢者医療連合との協議では、保健師が地域診断を実施し、地域課題を明らかにするなどの事業の必要性を確認していることから、今後も保健事業および介護予防の中で、一体的なフレイル防止のための事業にシフトしていきたいと考えている。



フレイルとは？

加齢により、心身が老い衰え、社会とのつながりが減少した状態のことを指します。

第451回 市議会定例会決算審査特別委員会（9月14日） 意見が分かれた議案の賛否一覧

Table with columns for 委員氏名 (1-18) and 議決結果. Row 1: 第63号議案 令和2年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について. Results: 認定制 (18 votes).

※「○」⇒賛成した委員、「×」⇒反対した委員、「欠」⇒欠席した委員、「委」⇒委員長のため表決に加わらない

※決算審査特別委員会は議長及び議会選出監査委員を除く全議員で構成される

※第63号議案は採決の結果、可否同数（賛成7反対7）となり、委員長裁決により認定となった。

予算審査特別委員会

第70号議案・令和3年度白石市一般会計補正予算(第6号)から第74号議案・令和3年度白石市下水道事業会計補正予算(第1号)の計5議案について、定例会3日目(9月10日)の本会議において質疑が行われた後、議長を除く全議員で構成する予算審査特別委員会が設置され、審査が付託されました。

同委員会(委員長・保科善一郎、副委員長・森建人)は、9月15日に審査を行い、すべての議案について採決の結果、全会一致で原案のとおり可決しました。審査の中で議論された主な点は次のとおりです。

◎令和3年度白石市一般会計補正予算(第6号)

総務費

〔質疑〕ふるさと納税の広報として、ステイプロモーション業務委託料に423万5千円を計上しているが、内容を伺う。

〔答弁〕ふるさと納税者が多い地域や、新たにふるさと納税をしていただく期待が高い地域を対象に、全国紙の1ページ全面を使用し本市の魅力やPRするもので、昨年度は白石城を

バックに、白石市アンバサダーを務める森川智之さんが片倉小十郎に扮し、本市の特産品などをPRしていただいた。

また、ふるさと納税のページにつながるQRコードを掲載したことや、森川さんのブログやSNSなどが拡散されたことで、寄附受入金額の増加に定額の成果があったことから、本年も引き続き臨時交付金を活用し、実施するものである。

商工費

〔質疑〕アフターコロナ対策事業委託料に1千148万8千円を計上しているが、観光需要の喚起事業として、どのように宿泊事業者を応援していくのか伺う。

〔答弁〕観光事業の回復と地域経済の活性化を目的に、昨年度実施した市内宿泊事業者応援事業を追加して実施したいと考えている。

具体的には、対象者を東北6県在住者とし、1人につき宿泊料金の2分の1、上限を5千円として割引をするものである。

土木費

〔質疑〕スマートインターチェンジ整備事業において、官民連携基盤整備推進調査委託料に4千505万円を計上しているが、これは道の駅、スポーツ・レクリエーション拠点の地質調査や概略設計、PPP・PFI導入可能性調査などを行うものとのことである。

このうちPPP・PFI導入

入可能性調査の内容を伺う。

〔答弁〕民間事業者が参加しやすい公募を行うため、事業の発案段階や検討段階において、民間事業者に意見や提案などを求め、対話を通じて市場性の有無や実現の可能性を把握し、民間事業者が有するアイデアの収集などを行う調査である。

教育費

〔質疑〕小中学校費において、修学旅行キャンセル費用等補助金が計上されているが、実際に修学旅行がキャンセルや延期になった学校はどのくらいあるのか。

〔答弁〕この補助金は、新型コロナウイルス感染症の影響で、修学旅行が中止になった場合などに補償されるキャンセル保険料や保険の補償対象外となった児童・生徒に対し費用を補助するものであるが、現在のところ、修学旅行を実施した学校は2校であり、それ以外はすべて延期としている。

9月定例会における新型コロナウイルス感染症対策

本年8月27日から9月12日までの期間、宮城県が緊急事態措置を実施すべき区域の対象となったことに伴い、9月定例会において次のような対策を行いました。

●議会傍聴

報道機関を除き中止
※緊急事態宣言が解除された9月13日からは12人まで受け入れを再開

●一般質問

一人当たりの質問時間を20分(通常30分)とし、通告書に沿って市当局側の出席者を限定

●決算審査特別委員会

1日目に総務産業建設所管の質疑、2日目に厚生文教所管の質疑などと分けて行うことで、市当局側の出席者を限定

●常任委員会

会場を委員会室から大会議室に変更

●現地調査

バス移動のため中止

**スマートインターチェンジ設置
推進特別委員会中間報告**

委員長 四竈 英夫
副委員長 大森 貴之
委員 伊藤勝美・平間知一
保科善二郎・佐久間儀郎
菊地忠久・松野久郎

定例会初日(9月6日)、ス
スマートインターチェンジ設置
推進特別委員会の調査活動
経過について、四竈英夫委員
長より中間報告がなされまし
た。

報告の概要については、次の
とおりです。

令和3年8月30日に関係部
課長の出席を得て、(仮称)白
石中央スマートインターチェ
ンジ周辺整備基本計画の概要
について説明を受け、今後の
進め方について協議を行なっ
た。

周辺整備基本計画について
は、本年5月に(仮称)白石中
央スマートインターチェンジ周
辺整備活性化検討委員会か
ら基本計画案の答申を受け、

6月11日から7月9日にか
けてパブリックコメントの募集
を行い、39人から83件の意見
が寄せられ、これらの意見を参
考に計画を検討した旨報告が
あった。

主な検討結果として、道の
駅整備については「魅力的な
道の駅整備のコンセプト作成
やP.F.F.可能性調査を含め、
整備内容の詳細について検討
を進めていくこと」、生涯スポ
ーツ拠点パークゴルフ場整備
については「健康を増進し、幅
広い年齢層に楽しんでいた
けるスポーツ・レクリエーショ
ン拠点として、パークゴルフ場
に限定することなく、提案の
あった施設整備を含め検討し
ていくこと」、「工業・物流団地
整備については、「雇用が多く
見込める製造業を核とするこ
とを目標に整備、企業誘致活
動を進めること」、「主に製造業
の誘致目標から『工業・物流団
地』を『工業団地』に名称変更
をする」、「工業団地につい
ては、市の財政状況、企業誘致
状況などを見ながら、段階的
に整備を進めること。また、防

災調整池の位置などの計画を
見直すこと」、「各企業の多様な
ニーズに対応した区画割りが
できるよう、道路以外の区画
割りを消して、さらにスマート
インターチェンジと国道4号に
面した土地を希望する企業に
対応するため、西側のスマート
インターチェンジ周辺にも工業
用地を拡大すること」などを
行う旨説明があった。

土地利用や面積は、今後、整
備検討する段階で調整される
ことにはなるが、パブリックコ
メント後に見直しをした、周辺
施設を含む事業区域面積は約
50ヘクタールで、概算事業費は
106億円を見込み、工業団地が
約30.7ヘクタール、スポーツ・レ
クリエーション拠点が約8.7ヘク
タール、道の駅約3.3ヘクタール
を整備する旨説明があった。

点ではオーダーメイド方式で
進めていく考えであり、地権者
には、市が企業の立地希望を
受けた時点で用地取得にご協
力いただき、それまでは耕作
者も含め、農業が継続できる
よう協力をお願いしていくこ
と、「道の駅は9月以降、具体
的なレイアウトや機能などを
検討していくこと、また、スポ
ーツ・レクリエーション拠点も
同様に、パークゴルフ場に限定
せず、具体的な中身も含め9
月以降検討していくこと」、「工
リア内の道路は先行して整備
し、道の駅につながる上下水道
管を布設すること」、「下水道は
流量について検証を図り、認可
計画を立てていくこと」などの
整備内容の詳細を把握するこ
とができた。

今後のスケジュールについて
は、今定例会に9月補正予算
案として計上した官民連携基
盤整備推進調査委託料(国庫
補助2分の1)において、道の
駅ならびにスポーツ・レクリエ
ーション拠点の整備に関わる地
質調査、概略設計、整備効
果の検討、一体的整備に係るP

PPP導入可能性調査を
行うため、議決後速やかに発
注手続きを進め、周辺整備基
本計画についても確定後、速や
かに公表を行うとともに、スマ
ートインターチェンジの用地測
量や不動産鑑定契約手続きと、
周辺整備基本計画に係る地権
者説明会の開催を予定してい
るとの説明があった。

当局から周辺整備基本計画
などの説明を受け、調査や計
画策定、関係機関との協議が
着々と進んでいるものとの共
通認識を持ち、本特別委員会
としても、「第六次白石市総合
計画」における本市が目指す
将来像「人と地域が輝き、とも
に新しい価値を創造するまち
しろいし」の実現のため、スマ
ートインターチェンジの早期完成
と周辺整備のさらなる充実を
目指し、引き続き当局との情
報共有、意見交換を行うなど、
継続した委員会調査活動によ
り、地元住民・関係機関との調
整を行なっていくことを確認し
たところである。

常任委員会

定例会3日目(9月10日)に提案・付託された請願第4号について、9月16日の常任委員会で審査を行いました。

委員会では、紹介議員(森建人)と提出者(刈田病院の健全経営を求める会共同代表 大槻昌嗣氏)から請願の趣旨などの説明を受け、質疑を行いました。質疑終了後、継続審査の動議があり、採決の結果、賛成少数で否決されました。続いて反対および賛成の討論が行われ、採決の結果、請願第4号は、賛成多数で採択すべきものと決定しました。審査の中で議論された主な内容は次のとおりです。

総務産業建設常任委員会

- 委員長 菊地 忠久
- 副委員長 森 建人
- 委員 澁谷政義・高橋純齋
- 小川正人・保科善一郎
- 大森貴之・角張一郎

◎安心安全な地域医療のために、刈田病院の健全経営を求めることに関する請願

●請願の趣旨説明

現在、危機的な経営状況にある公立刈田総合病院は、現在の体制のまま経営を続ければ赤字が膨らみ、資金繰りに行き詰まり、閉院を迎えることは明白

確保ができなくなり、市民サービスの大きな低下を招くことが容易に想像できる。

また、刈田病院の赤字体質を放置し、その穴埋めとして多額の補助金の繰り出しを続けられ、市の財政破綻につながることも容易に想像できる。

健全な病院経営と市の財政運営をすることで、市民が安心して暮らせるまち、企業が安心して仕事に取り組めるまちを目指して欲しい。

子どもたち、孫たちの世代に、より良い刈田病院と白石市を残してもらうことを強く望み、請願書を提出するものである。

●紹介議員と提出者への質疑

〔質疑〕6月にも同様の請願を提出し、取り下げをしているが、再度提出した理由を伺う。

〔答弁〕公立刈田総合病院運営検討委員会が設置され、有識者など第三者による議論がなされたため、検討委員会の議論に影響が出ないよう、一度請願を取り下げた。

検討委員会の結論が出たも

の、白石市外二町組合の臨時議会において、公設民営化を可能とする条例改正案が否決されたことから、このままの状況ではいけないという思いと、スピード力を持った経営改善が必要であるとの思いから、再度提出したものである。

〔質疑〕指定管理者制度が必要と考える理由を伺う。

〔答弁〕民間は行政よりも、スピード感や柔軟な発想、効率性や経済性、組織や業務の弾力性などにおいて優れている場合が多い。

指定管理者制度は、民間のノウハウを活用し、サービス向上施設の効率的な運営を実現するための制度である。

全国各地でも多くの自治体や施設で指定管理者制度を導入しており、積極的に活用すべきであると考ええる。

〔質疑〕指定管理者制度の導入においては、組合を解散し、市立病院として公設民営化を行う方法が検討されている。

組合を解散した場合、10億円とも言われる借財の負担全てが市にのしかかり、市民サービスの大幅な低下ばかりか市政自体を揺るがしかねない。このことについてどのようなことを考えるか伺う。

〔答弁〕現在の刈田病院の運営のままでは、毎日約300万円、1カ月で1億円の赤字が出るのが問題である。

白石市議会でもしっかりと議論していただきたい。

〔質疑〕署名を集める中、どのような声があったか。

〔答弁〕「刈田病院を良くしてほしい、今のままでは病院も白石市も潰れてしまつのではないか」といった不安の声や、「刈田病院や白石市のために頑張ってください」など応援の声があった。

●市への質疑

〔質疑〕令和2年度の刈田病院への市の繰出金は10億円であった。

そのうち地方交付税が約2億7千万円であったが、市の



常任委員会の様子

繰出金が増えた場合、地方交付税は増えるのか。
〔答弁〕 地方交付税には普通交付税と特別交付税があるが、どちらも繰出金が増えたとしても、交付税が増える仕組みではない。

〔質疑〕 健全経営化のために国に提出する改善計画案のままで改善計画は立てられなかったのか。
〔答弁〕 現在の公設公営では、現実的には改善計画は立てられない状況にある。

第451回 市議会定例会総務産業建設常任委員会（9月16日） 意見が分かれた議案の賛否一覧

件名	委員氏名	審査結果	1	2	3	4	5	6	7	8
			澁谷政義	高橋 純斎	小川 正人	保科善一郎	大森 貴之	森 建人	角張 一郎	菊地 忠久
請願第4号 安心安全な地域医療のために、刈田病院の健全経営を求めることに関する請願（継続審査の動議）		否決	○	○	×	○	×	×	×	委
請願第4号 安心安全な地域医療のために、刈田病院の健全経営を求めることに関する請願（採決）		採択	×	×	○	×	○	○	○	委

※「○」⇒採択に賛成した委員、「×」⇒採択に反対した委員、「委」⇒委員長のため表決に加わらない
 ※総務産業建設常任委員会は議員8人で構成される

討 論

定例会最終日(9月27日)に行われた討論の主な内容は次のとおりです。

◎安心安全な地域医療のために、刈田病院の健全経営を求めることに関する請願

反対 保科 善一郎

今回提出された請願書について、3千310人の署名を集めて提出されたことを大変重く受け止める。

また、請願の趣旨もおおむね理解する。

しかし、刈田病院がなぜこのような経営悪化に至ってしまったのか、そして今後、刈田病院経営の在り方などをどのように行うべきか、これらの課題についての背景や、財政などについての認識や理解が不足しているように思う。

また、刈田病院は地方自治法に基づき、白石市、蔵王町、七ヶ宿町が設置した特別地方公

共同体であり、法人格を持った一部事務組合としての組織である。

つまり、今回の請願は組合議会での議論すべきものであり、請願を採択することは、地方自治法に定める一部事務組合としての組合議会の権能を冒すことになり、越権行為に該当する。

刈田病院の経営改善は、白石市民や蔵王七ヶ宿町両町民の共通の思いという点では一致していると思われる。

病院の未来を考える上で、組合を中心に置き、正副管理者の動向を注視しながら、議会としても調査・研究を進めていくべきと考ええる。

以上の理由から、この請願の採択に反対する。

賛成 大森 貴之

刈田病院の存続を考える場合、経営健全化を実現するには公設民営化を推進すべきであると考ええる。

現在の公設公営のままでは繰出額が大きく、86.7%の市

の負担は毎年10億円を超えるものとなり、その状態が今後も続けば、市の財政破綻の恐れがある。

また、公設公営での收支改善に向かう具体的な経営改善計画案がなく、国に提出する財政健全化計画でも、公設民営化による対策を提言している。この計画書は蔵王町長、七ヶ宿町長両副管理者の承認を得ている。

現在のままでは、東北大学からの医師の確保や診療科目を増やすことも望めず、営業利益の増収も見込めないが、公設民営化に移行すれば、診療科目の増設や診療体制の充実が期待できるものと考ええる。

市民の命を守る市民のための病院として、刈田病院を存続させるためにも、公設民営化も含めた経営の健全化を推し進める必要があることから、本請願を採択することが最も重要な事と考ええる。

市の財政に多大な影響が生じている今、白石市議会としての意思を表明すべきである。以上の理由から、この請願の採択に賛成する。

市政に 対する 一般質問

〰〰〰9名の議員が質問〰〰〰

9月定例会の一般質問は、9月21日・22日の2日間にわた
り行われました。質問の要旨は次のとおりです。

高橋 鈍齋 公立刈田総合病院存続について

佐藤 龍彦 本市の教育について

平間 知一 地域医療について

佐藤 秀行 益岡公園野球場について

松野 久郎 防災・減災への取り組みについて

菊地 忠久 防災・減災について

高子 秀明 本市の財政運営について

四竈 英夫 デジタル推進課設置による業務の効率化に
ついて

大森 貴之 水道事業の強化について

他 他 他 他 他 他

公立刈田総合病院存続について

高橋 鈍齋



いかがか。

〔答弁〕〔市長〕全国の公立病院の約9割が赤字であり、刈田病院も同様である。

地域医療と市の財政を守るの思いで条例案を上程したが、残念な結果に終わった。
〔質問〕市長は組合解散を公約していない。

今のままで、どうやっていくかを先に考えるべきと思うが、いかがか。

〔答弁〕〔市長〕組合解散の提案は、両副管理者から頂戴した。組合解散には、ごたわつておらず、両副管理者からの提案により検討したものである。

〔質問〕市立病院に移行となった場合、どのくらいの期間を想定しているのか。

〔答弁〕〔市長〕現時点で想定している明確な時期はない。

〔質問〕組合解散となればかなり時間がかかる。市の財政が大変な状況ならば、今どうするかが先決ではないのか。

〔答弁〕〔市長〕刈田病院存続のため、あらゆる方法の検討が必要である。条例改正案を認めていただければ、民間の医療法人などから提案をいただけるようになり、公設民営、公設公営の判断ができる。

〔質問〕刈田病院への繰入れを一気に減額したことで病院経営が厳しくなったと思うが、予算編成の際、最初から基金ではなく当初予算に割り振りする考えはないのか。

〔答弁〕〔市長〕毎年財政調整基金を取り崩して予算編成をしている。基金を取り崩さないで予算編成するのは現実的に不可能である。

【その他の質問】

◎スパチュランド
3.15.2022

本市の教育について

佐藤 龍彦



〔質問〕本市の全国学力・学習状況調査の結果について伺う。

〔答弁〕【教育専門監】小学校および中学校の国語、算数・数学ともに全国には及ばなかったものの、ほぼ県平均並みの結果となった。

しかし、算数・数学については全国平均との乖離が見られ、課題となっている。

また、学習意欲や学習方法、生活面などを調査する学習状況調査の結果、平日において、1日3時間以上ゲームやスマホをしている児童・生徒が3割以上おり、全国と比較しても非常に多い状況である。

一方、平日の学校以外での学習時間を問う質問では、1時間以上学習する小学生の割合は6割を超えており、全国の割合より高くなっているものの、中学生においては、2時間以上勉強している割合が全国と比べ、大きく下回っている実態が明らかとなった。

〔質問〕全国学力・学習状況調査の結果をどのように認識しているか伺う。

〔答弁〕【教育長】全国平均には及ばない結果ではあるが、学力は着実に伸びていると考えている。

一方、学習状況調査の結果によると、生活に関する課題は改善されていない。

ゲーム、スマホの使い

方、家庭学習の取り組み状況について大きく見直し、強化していく必要があると認識している。

〔質問〕全国学力・学習状況調査の結果を受け、今後どのように対応していく考えか伺う。

〔答弁〕【教育長】学力向上に関するPDCAサイクルに基づいた取り組みを着実に実施し、さらに、新学習指導要領が求める資質、能力を育成するための授業の在り方を学校と共に検討し、これからの時代に求められる力を育むための授業改善を図ってきたいと考えている。

加えて、児童・生徒の生活改善は急務であることから、PTAとの連携をより一層強め、保護者の皆さんと共にこの課題に積極的に取り組んでいきたいと考えている。

【その他の質問】

◎スパシミュランドについて

地域医療について

平間 知一



〔質問〕公設民営化議論の影響で、経営状況、医療提供体制は重点支援区域申請時の想定と大きく乖離している。

市長は刈田病院を守る責任があるとしているが、住民が必要とする病院の機能維持についての考えを伺う。

〔答弁〕【市長】刈田病院は1市2町の住民以外にも、地域医療連携プラットフォームに基づいた、仙南医療圏にとって必要不可欠な施設である。

現在も可能な限り救急の受け入れや新型コロナウイルス対策を行なっているが、そのような機能は今後も必要であると考えている。

〔質問〕みやぎ県南中核

病院との機能分担による連携は重要で、継続して進めていく姿勢であると理解している。

今後も刈田病院の診療科の維持を基本に、連携を進めるとの考えに変わりはないか伺う。

〔答弁〕【市長】人口減少、高齢化率の上昇が顕著となる中、広範囲に及び仙南医療圏の地域医療を守る観点から、みやぎ県南中核病院との連携は非常に重要である。

医師、医療従事者の配置状況を含め、現状の改善に向けて、県とも連携を図りながら地域医療の充実に努めていきたい。

〔質問〕刈田病院の医師確保に市が1千100万円の予算を計上し、コンサルタント会社に医師の紹介を依頼、福岡市に拠点を置く相生会から医師4人が着任した。

派遣医師のうち2人は、刈田病院への支援体制調査のため短期滞在とし、直接診療には当たっていないとのことである。

滞在費については病院が負担することだが、その理由を伺う。

〔答弁〕【市長】紹介医師は、市から一部事務組合である刈田病院に連絡するものとし、採用や採用に当たった条件は一部事務組合で決定している。

〔質問〕地域医療構想に基づく重点支援区域の枠組みである、公設公営同士の病院の連携を否定していることにより、東北大学から来ている医師の離職が危惧されるが、見解を伺う。

〔答弁〕【市長】公設民営ありきではないが、公設公営と比較し、よりよい病院運営形態を検討する選択肢を増やすべきと考える。

益岡公園野球場について

佐藤 秀行



〔質問〕球場側には街灯が1基しかなく、十分な明るさではないと感じる。

安心して階段の上り下りができるよう、歩道側あるいは球場側にもう1基設置するのが良いと考えるが、見解を伺う。

〔答弁〕都市創造課長 予算の件もあるが、現地在を再度確認し、検討したい。

〔質問〕駐車場から球場に上がるまで、急な階段が2カ所ある。手すりなどの必要性を感じるが、見解を伺う。

〔答弁〕都市創造課長 球場の利用団体や公園

利用者の声を聞きながら、設置に向けて検討したい。

◎不登校問題について

〔質問〕不登校傾向の児童・生徒が昨年度より増加傾向にある。

心のケアハウスの職員増員、特に女性職員などの採用について考えを伺う。

〔答弁〕教育長 一定数の不登校児童・生徒がいることは、本市の教育課題の一つであり、心のケアハウスは、不登校の問題に大きな役割を果たしている。

不登校の女子児童・生徒もいることを踏まえ、現在の男性のみの職員構成から、女性職員の採用についても検討していきたい。

〔質問〕別室登校が増え、不登校傾向の生徒が増えていく学校もあると

聞かすが、さらなる増加、教職員の負担が懸念される。

今後の支援についての考えを伺う。

〔答弁〕教育長 今年度から県の事業で、白石第二小学校と白石中学校に学び支援教室を設置している。

今後、必要とする学校があれば県と協議し、県の支援を受けながら体制の拡充を検討していきたい。

〔質問〕学校や心のケアハウスの職員採用に、新型コロナウイルス感染症対応の地方創生臨時交付金などの活用を検討してはいかがか。

〔答弁〕市長 心のケアハウスの果たす役割は非常に大きいことから、今後、県の支援がなくなっても、市の一般財源などを投入し、本事業を推進していかなければならぬと考えている。

このことから、臨時交付金の活用についても検討していきたいと考える。

防災・減災への取り組みについて

松野 久郎



〔質問〕令和元年の台風19号で被災した箇所を整備状況と、強靱化などによる減災への取り組み状況を伺う。

〔答弁〕建設課長 特に被害が大きかった公共土木施設では、31カ所中30カ所が発注済み、農業用施設で30カ所中24カ所が発注済みであり、8月末現在で61カ所中25カ所が完了している。

災害関連の対策事業を活用し、施設の強化を図るとともに、国の事業を活用した減災への取り組みを進めていきたい。

〔質問〕安全・安心を守る、防災・減災対策への

取り組みを伺う。

〔答弁〕市長 災害対策基本法の改正により、避難勧告が廃止され、避難指示に一本化されたことから、全戸にチラシを配布し周知を行なった。引き続き、自主防災

組織への補助金の交付により、地域防災力の向上を図るなど、防災・減災の対策に取り組んでいきたい。

◎新型コロナウイルス感染症対策について

〔質問〕集団感染防止のため、幼稚園、保育園、小・中学校、高齢者施設での定期的なPCR検査が必要と考えるが、見解を伺う。

〔答弁〕市長 今後示される政府の指針に沿って、ワクチン・検査パッケージなどの運用を行なっていくが、既に検査キットによる抗原定性検査

が高齢者施設や教育機関に導入される予定であることから、集団感染の抑制が図られるものと考えている。

◎空き家等対策の現状と課題について

〔質問〕市内では空き家が目立っているが、今後さらに広がる空き家問題に対し、どのように対処しているか伺う。

〔答弁〕建設課長 管理不良のまま放置された空き家は、隣接土地などへの影響による通報や相談が多く寄せられており、現状把握のため職員が現地調査を行い、速やかに所有者に連絡している。

空き家の問題は、防犯・防災、生活環境、景観など、周辺への影響を及ぼす一方、地域活性化の取り組みとして有効活用されている事例もある。

引き続き国や県、近隣自治体や先進事例を参考に、関係各課と連携を進めていきたい。

防災・減災について

菊地 忠久



と連携し教職員の研修会を行い、令和4年1月には中学生対象の防災研修会を実施する予定である。

〔質問〕令和元年の台風19号が発生した10月12日をメモリアルデーに定め、改めて防災教育を強化すべきと考えるが、所見を伺う。

中学生が防災指導員の資格取得を目指すことなどにより、防災についての実践力の向上を図ってきたい。

〔答弁〕教育長 令和元年の台風19号により、本市では複数の学校が被害に遭っており、特に被災した学校では、それぞれが特色ある取り組みを行なっている。

〔質問〕ARRやVRを使った疑似体験を通じて、災害への意識を高める必要があると考えるが、所見を伺う。

台風19号が発生した時期は、本市では秋休みに当たるため、メモリアルデーは決めていないが、台風19号を契機として防災教育の強化を図っている。

〔答弁〕市長 全国でも防災教育や避難訓練で、ARRやVRを取り入れた訓練を行なっている小中学校がある。

ARR機能がついたゴーグルを装着し、廊下に充満した火事の煙が再現されたり、校庭では首元まで水没するといった疑似体験ができるものである。

参加した児童は「煙で何も見えなくて怖かった」また、水没体験では「瓦礫が流れ、とても人を助ける余裕はなかった」と話していたそうである。

本年度には宮城教育大学の防災教育機構

リリアティーのある疑似体験をすることで、より防災への意識が高まる効果を得られるものと考えている。

毎年6月に地域一体となった総合防災訓練を実施しているが、各小中学校から協力を得て、児童生徒も訓練に参加することにより、防災教育、防災に対する意識向上という意味では一定の成果があったと考えている。

〔その他の質問〕

◎学力向上について

本市の財政運営について

高子 秀明



ため、予算執行率が低くなっている。

〔質問〕土木費および災害復旧費の予算執行率が低い、このことに関する見解を伺う。

〔質問〕市長自ら「本市財政が厳しい状況である」と発言することについて、市民感情への影響をどのように受け止めているか伺う。

〔答弁〕市長 土木費については、令和2年度第3次補正予算により措置された国庫補助事業や入札の不調、新型コロナウイルスの影響による業務工程の遅れのため、予算執行率が低くなっている。

〔答弁〕市長 財政状況が厳しい状況であることは、市民にとっても好ましくない情報であるが、本市が「持続可能なまち」選ばれるまち白石市」としてあり続け、発展していくためには、市民の皆さまのご理解、ご協力なくして進んでいくことはできない。

災害復旧費については、令和元年度台風19号に係る復旧事業の規模の大きさから、工事の詳細設計に時間を要しているものや、入札の不調で年度内執行が困難となったことにより、翌年度に繰り越しをした

そのためには、本市の実情を知っていただくことが必要であると考えている。

〔質問〕令和2年度一般会計歳入歳出差引額の状態を見ると、結果的には公立刈田総合病院

への繰出金を増額できたと見てとれるが、今年度末に關しても昨年度と同様の状況になると予想される。

このことについて、どのような認識であるか伺う。

〔答弁〕市長 本市としても、現在の病院経営について非常に厳しい状態であるということ十分承知しているところである。

経営改善のための努力を継続しているが、新型コロナウイルス感染症への対応、行政のデジタル化、スマートインターチェンジ周辺施設の整備、老朽化してきている公共施設の整備など、本市が取り組まなければならぬ課題も山積している。

これらの課題についても多額の費用が見込まれることから、刈田病院の支援だけに財源を投入することは、非常に難しいと考えている。

デジタル推進課設置による業務の効率化について

四 電 英 夫



〔質問〕政府は9月1日、デジタル庁を発足させた。本市も今年度デジタル推進課を設置したが、業務内容とメリットについて伺う。

〔答弁〕デジタル推進課長「行政手続きのオンライン化によりスマートフォンなどを活用し、市役所に来なくても24時間、手続きが可能になることから、窓口での待ち時間の削減がメリットとして挙げられる。また、窓口のキャッシュレス化により現金の受け渡しがなくなることで、感染症対策にもなるなど来庁者の利便性の向上につながると思われる。

〔質問〕デジタル化を推進するための対策を伺う。

〔答弁〕デジタル推進課長「マイナンバーカード取得者のうちマイナンバー対象者への設定支援、マイナンバーカードへの保険証機能の設定支援、子育てや介護関係のオンライン化の検討、高齢者向けのスマホ教室の開催、窓口キャッシュレス化の試験導入などを検討している。

◎持続可能な開発目標(SDGs)への取り組みについて

〔質問〕人権や環境など、SDGsには17項目の目標が掲げられている。「誰一人取り残さない」という理念のもとに進められる計画だが、本市の具体的な施策を伺う。

国際社会の17の目標に対する具体的な施策として、第六次白石市総合計画の分野目標に29の施策、第二期総合戦略の基本目標に15の施策を設定している。

〔質問〕計画を進めるには、市民と一体となった取り組みが必要であると考えるが、どのように理解と協力を得ていく考えか伺う。

〔答弁〕〔市長〕本施策の推進を図るため、本年7月、あいおいニッセイ同和損害保険と協定を締結し、職員の資質・能力向上のための研修会を開催した。

令和2年6月には4者協定(白石高校、県中小企業家同友会、東北財務局)を締結し活動を進めている。

長期的視点に立ち、総合的かつ効果的な施策を展開していきたい。

その他の質問

◎新型コロナワクチン接種について

水道事業の強化について

大 森 貴 之



〔質問〕宮城県では令和4年から、みやぎ型管理運営方式に移行する方向であり、本市にとっても水道事業への影響が考えられる。

令和3年版白石市水道ビジョンに「県受水と自己水源の比率について協議を進める」との記載があるが、県との協議の現状について伺う。

〔質問〕年間総配水量の40%前後が県受水となっている。

さらに協議を進めてほしいが、見解を伺う。

〔答弁〕〔市長〕県や受水市町の合意は得られていないが、本市の重要な課題であることから、今後も県や受水市町に働きかけ、計画基本水量の見直しの実現に取り組んでいく。

〔質問〕自己水源量の拡充対策を早急に行うべきと考えるが、見解を伺う。

〔答弁〕〔市長〕現時点では広域水道から受水を受けないと、総配水量が賸えない状況にあると認識している。

水利権なども含め、慎重な検討が必要であると考ええる。

〔質問〕無効水量については、ほとんどが漏水

量である。漏水量を削減するには管路の更新が重要であり、予防保全の割合を高めるべきと考ええるが、見解を伺う。

〔答弁〕〔市長〕漏水量の削減は有収率の向上につながるが、水道事業の経営にとって影響が大きく、重要な問題であると認識している。

更新工事には多額の事業費とマンパワーが必要となるため、短期間での更新は難しいことから、布設年度や漏水発生率、利用状況など総合的に勘案し、優先順位をつけて管路の更新を進めることとしている。

〔質問〕水道事業における知識や経験の継承についての考えを伺う。

〔答弁〕〔市長〕水道事業所長「職員誰もが対応できるように、連係訓練を実施し、意識向上を図っている。

討論

決算審査特別委員会(9月14日)および定例会最終日(9月27日)において、第63号議案に対する討論が行われました。定例会最終日に行われた討論の主な内容は、次のとおりです。

◎第63号議案・令和2年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について

反対 平間 知一

反対の立場から、大きく2つの点について指摘したい。

1 点目、本市の財政について、令和2年度一般会計決算は、緊急対策として国庫支出金などが大幅な増加となった一方、財源確保の厳しさを示す依存財源に頼らざるを得ない姿も顕著に表れている。

そのようなか、自治体が通常水準の行政サービスを提供するために必要な一般財源を示す標準財政規模は、過去3年を

見ても安定的規模を維持しており、財政力指数では宮城県内市町村において、中の上にランクアップされている状況である。

これらのことから、他の分析比率を総合的に見ても、本市財政は厳しい状況を垣間見ることはできない。

特に令和2年度は、市民の安定的生活基盤の確保に向けた集大成ともいえる数字であったと言える。

2 点目、市民の命を守るための配慮、つまり白石市外二町組合、公立刈田総合病院に対し、過度な財源不足をあり、本来すべき努力義務を怠った結果、市民が享受すべき機会までも半減させている点は評価できない。

白石市外二町組合への出資金・補助金・負担金の繰り出しは、令和2年3月、市長が指定管理者制度による公設民営化案を表明した影響から、刈田病院の経営状況、医療提供体制は重点支援区域申請時の想定とは大きく乖離している。

令和2年度は市から病院への繰出金の減少により、病院は

現金収支で黒字予算を組むことができなかった。

総務省の公立病院への繰り出し基準を見ると、刈田病院は10〜11億円が基準であるが、令和元年度以降は大幅に下回っている。

しかも、新型コロナウイルス感染症による医業収益の減少もあり、大幅な赤字決算が見込まれ、刈田病院の運営はますます厳しい状況となった。

刈田病院は、新型コロナウイルス感染症、医師・看護師の減少により、1カ月当たり約1億円の赤字を積み重ねている状況である。

この財源不足には、国の新型コロナウイルス感染症特別減収対策企業債12億5千万円をもつて補填しても、病院全体では資金不足比率調整のため3億2千万円が必要となり、今回も補正予算に計上された。

しかし、コロナ減収企業債の12億5千万円は起債のため、資金ショート回避には有効ではあるが、結果として刈田病院の借金は膨らむばかりである。

そこで、令和元年度の資金不足調整額は、1市2町から病院へ貸付金として、一時借入金金の割合で負担したが、令和2年度は繰出金として、本来の割合で負担をしている。なぜだったのか疑問が残る。

令和元年度・2年度とも、当初予算では決算時に資金不足調整額が生じていることから、繰り出し基準の見直しが必要であると考ええる。

職員全員で収益を上げようと努めても、巨額の債務を抱えざるを得ない現状は、職員の疲弊と、この地域の医療の疲弊を招く結果となった。

このことから、新型コロナウイルス感染症まん延中の状況下で、市民の命を守る姿勢が決算書には垣間見ることができない。

市民の健康と命を守るために、地域医療の要としての刈田病院の経営が成り立つことが最優先ではないだろうか。以上の理由から、第63号議案に反対である。

賛成 菊地 忠久

令和2年度は新型コロナウイルス感染症という、これまで経験したことがなく、未だ出口の見えない中、市政運営に取り組んできた苦労は察して余りある。

歳入歳出全体を見れば、一般会計の実質単年度収支は1億3千445万7千円と2年連続の黒字、特別会計では3特別会計全体で、実質収支額は2億31万5千円の黒字となった。

一般会計、3特別会計ともに、黒字計上としたことは、おおむね健全な財政運営がなされたと判断できる。しかしながら、そのことによって本市の財政に余裕があると言えるわけではない。

少子高齢化と人口減少が進出し、地域経済も縮小していく中、老朽化する公共施設の維持・管理・整理、防災対策、教育、福祉など、必要な施策を挙げれば、予算がいくらあっても足りない。

限られた予算の中、優先順位をつけ、事業の選択と集中を行い、

最小の予算で最大の効果が得られるよう、効率的・効果的な事業運営を行なった結果が令和2年度の黒字計上であり、決して本市の財政を楽観視してはいけません。

個別の施策に目を向ければ、ふるさと納税寄附金額が約5億5千980万円と前年度同様高い実績を上げたことは高く評価できる。

新たな自主財源の確保と市内経済活性化に大きく寄与する事業であることから、返礼品の充実や本市の情報発信を行い、さらなる寄附金額の増加に向けた取り組みを期待するものである。

9月にはしろいしサンパークがグランドオープンし、コロナ禍にあつても多くの方に来場していただき、好評を博している。

しろいしサンパークは、こじゅうろうくわすランドとおもしろいし市場は公設民営として指定管理者が、みのりキッチンとみのりラボは民設民営として、施設整備から運営までを民間事業者が行なっているのが特徴である。

民間事業者のノウハウや経営感覚を最大限に発揮し、県南の一

大交流拠点となるよう、施設を有効に活用していただきたいと考える。

また、10月には(仮称)白石中央スマートインターチェンジの新規事業化が決定し、現在、その整備に着手しているところである。

財政的にも本市の置かれている状況を楽観視してはいけませんが、守りの姿勢だけではなく、攻めの姿勢、未来への投資は必要である。

周辺整備においては、しっかりとした概略設計やPPP・PFIの活用を図り、整備効果が最大限に発揮され、本市発展の起爆剤となることを大いに期待するものである。

公立刈田総合病院に対し、本市は、8億9千744万円、1市2町では約10億3千500万円と多額の繰り出しを行なった。

持続可能な病院運営のため、一定の負担は当然に必要であり、資金ショートを回避するために、年度途中の追加の資金注入もやむを得ないと考える。

しかしながら、財源不足に対し、単に資金を注入すればいいというものでもない。

一部に、白石市が刈田病院へ繰り出す額が少なくなることが刈田病院の財政悪化の原因だという主張があるが、刈田病院の財政悪化の根本は慢性的な赤字体質であり、その点を改善しなければ、資金注入は時のぎでしかなく、根本的な解決とはならない。

白石市の財政規模に合わない多額の繰り出しを続ければ、ただでさえ厳しい財政状況の中で、行政サービスの大幅な低下と、かつての夕張市のように白石市本体の財政破綻が現実味を帯びてくる。

そうならないためにも、刈田病院の経営改善は急務であり、86.7%と突出して大きな出資比率を持つ本市が、責任を持って刈田病院の経営改革に取り組んでいただくよう強く要望するものである。

令和2年度白石市一般会計および特別会計歳入歳出決算の状況全般については、適正かつ効率的に執行されており、困難の多い状況下、これからも限られた予算を効率的、効果的に活用し、市民福祉の向上に向け、積極的な事業の推進に取り組むとともに、

ますます厳しくなることが予測される市政運営に対し、さらなる行財政改革を進めていただくよう要望するものである。
以上の理由から、第63号議案に賛成である。

意見書

定例会最終日(9月27日)、議員提案として次の意見書が上程され、採決の結果、全会一致で可決されました。

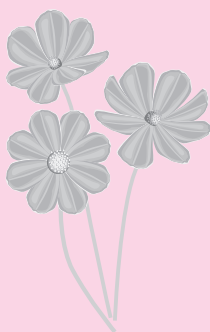
意見書は関係機関に送付されました。

◎コロナ禍による厳しい財政状況に対処し地方税財源の充実を求める意見書(概要)

新型コロナウイルス感染症のまん延により、地域経済にも大きな影響が及び、地方財政は来年度においても引き続き、巨額の財源不足が避けられない厳しい状況に直面している。

地方自治体では、コロナ禍への対応はもとより、地域の防災・減災、雇用の確保、地球温暖化対策などの喫緊の課題に迫られているほか、医療介護、子育てをはじめとした社会保障関係経費や公共施設の老朽化対策費など、将来に向け増加する財政需要に見合う財源が求められており、その財源確保のため、地方税制の充実確保が強く望まれる。

よって、令和4年度地方税制改正に向け、令和4年度以降3年間の地方一般財源総額については、他の地方歳出に不合理なしわ寄せがなされないよう、十分な総額を確保することなど、5つの項目を確実に実現されるよう求めることについて、関係大臣および国会に意見書を提出するものである。



議会の構成

常任委員会などの委員の任期満了に伴い、9月定例会の本会議において委員が選任され、その後、委員長・副委員長の互選が行われました。

各委員会などの名称、活動事項および委員は次のとおりです。

議会運営委員会 (7名)

議会の運営、会議規則および委員会条例などに関する事について、審査や調査をします。

- 委員長 佐久間 儀郎
- 副委員長 松野 久郎
- 委員 伊藤 勝美
- 委員 伊藤 知一
- 委員 平間 善一郎
- 委員 保科 善一郎
- 委員 大森 貴之
- 委員 佐藤 秀行

総務産業建設常任委員会 (8名)

総合計画、財政、市税、生活環境、農業、商工業および観光などに関する事について、審査や調査をします。

- 委員長 菊地 忠久
- 副委員長 森建 人
- 委員 澁谷 政義
- 委員 高橋 純斎
- 委員 小川 正人
- 委員 保科 善一郎
- 委員 大森 貴之
- 委員 角張 一郎

厚生文教常任委員会 (9名)

社会福祉、保健衛生、教育および生涯学習などに関する事について、審査や調査をします。

- 委員長 佐藤 秀行
- 副委員長 平間 知一
- 委員 高子 秀明
- 委員 佐藤 龍彦

議会広報委員会 (9名)

- 市議会だよりの編集および発行に関する事
- 市議会ホームページの運営に関する事
- その他議会の広報に関する事

- 委員長 四電 英夫
- 副委員長 平間 知一
- 委員 高子 秀明
- 委員 佐藤 龍彦
- 委員 伊藤 勝美
- 委員 高橋 純斎
- 委員 大森 貴之
- 委員 森建 人
- 委員 角張 一郎

議会改革推進会議 (8名以内)

- 議会のあり方に関する事
- 議会改革が必要な諸課題に関する事

- 委員長 松野 久郎
- 副委員長 伊藤 勝美
- 委員 高子 秀明
- 委員 保科 善一郎
- 委員 大森 貴之
- 委員 森建 人
- 委員 角張 一郎
- 委員 菊地 忠久

12月定例会は、12月3日(金) 午前10:00開会予定です

定例会は、市の予算や決算、条例など、市民のみなさんに深く関わりのある議案が審議されます。また、市議会ではインターネットによる中継を行なっています。本会議などをライブ中継や録画映像で視聴できます。

- 8月臨時会の傍聴者数 1人
- 9月定例会の傍聴者数 25人
- 8月・9月の中継・録画視聴者数 2,653人

人事

9月定例会において、次のとおり選任することに同意しました。

〔人権擁護委員〕

(任期：令和4年1月1日～)

令和6年12月31日)

齋藤 のり子 氏

石川 豊子 氏

佐藤 由光 氏

8月臨時会

第450回市議会臨時会が、令和3年8月23日に開かれ、市長提出議案3件の審議を行い、全会一致で原案のとおり承認・可決しました。各議案の内容は次のとおりです。

◎専決処分の承認を求めることについて(専決第14号)
(令和3年度白石市一般会計補正予算)

◎専決処分の承認を求めることについて(専決第15号)
(令和3年度白石市一般会計補正予算)

◎専決処分の承認を求めることについて(専決第14号)
(令和3年度白石市一般会計補正予算)

◎専決処分の承認を求めることについて(専決第15号)
(令和3年度白石市一般会計補正予算)

主な内容は、新型コロナウイルス感染症の影響により冷たい商品は追加販売するため、市内で使用できる3割増商品券を追加販売するため、1千600万円を増額し、予算の総額を16億6千336万4千円とするものです。

承認

◎令和3年度白石市一般会計補正予算(第5号)

原案可決

主な内容は、7月21日に開催された白石市外二町組合正副管理者会議において合意した、9月期に予想される病院事業の資金ショートを回避するための出資金3億4千680万円および予備費20万円を計上し、予算の総額を16億1千36万4千円とするものです。



白石市議会会議録を公開しています

白石市議会 会議録

検索

市議会のホームページに会議録を公開しております。キーワードでの検索のほか、会議・発言者・期間でも検索できます。どうぞご覧ください。

第451回 市議会定例会 (9月27日) 意見が分かれた議案の賛否一覧

件名	議員氏名	議決結果	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
			高子 秀明	佐藤 龍彦	伊藤 勝美	澁谷 政義	欠 番	沼倉 啓介	高橋 鈍齋	小川 正人	平間 知一	保科善一郎	佐久間儀郎	四竈 英夫	大森 貴之	森 建人	角張 一郎	菊地 忠久	佐藤 秀行	松野 久郎
第63号議案 令和2年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について		認定	×	×	×	○	/	×	×	議	×	×	欠	○	○	○	○	○	○	○
請願第4号 安心安全な地域医療のために、刈田病院の健全経営を求めることに関する請願		不採択	×	×	×	×	/	×	×	議	×	×	欠	○	○	○	○	○	○	○

※「○」⇒賛成した議員、「×」⇒反対した議員、「欠」⇒欠席した議員、「議」⇒議長のため表決に加わらない

編集後記

9月定例会では、令和2年度の決算審査が行われました。一般会計では、歳入歳出とも決算額が200億円を越え、これは平成8年度以来で、過去2番目の決算規模となりました。その大きな要因は、新型コロナウイルス感染症予防対策、経済対策が主なものでした。市民の皆さまも、さまざまな自粛要請で不慣れた生活を強いられ、感染への恐怖を抱きながらの生活だったのではないかと思います。今年も残すところ2カ月余りとなりました。来年は、新型コロナウイルスが収束し、笑顔あふれる賑わいのある1年にしたいものです。

議会広報委員会

角張 一郎

議会広報委員会 委員

- 委員長 四竈 英夫
- 副委員長 平間 知一
- 委員 高子 秀明
- 委員 佐藤 龍彦
- 委員 伊藤 勝美
- 委員 高橋 鈍齋
- 委員 大森 貴之
- 委員 森 建人
- 委員 角張 一郎